

経営比較分析表（平成29年度決算）

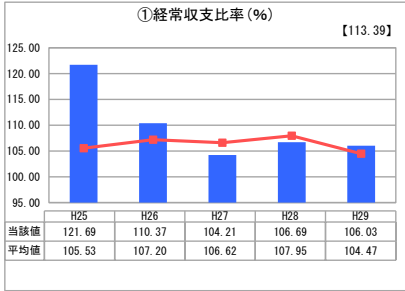
北海道 長万部町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	41.07	94.55	3,801	

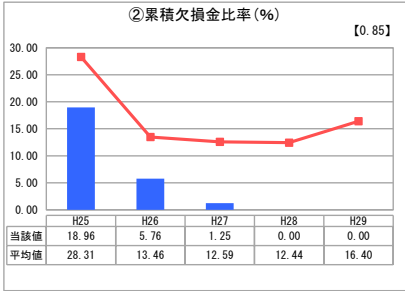
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,517	310.76	17.75
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,030	21.92	229.47

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

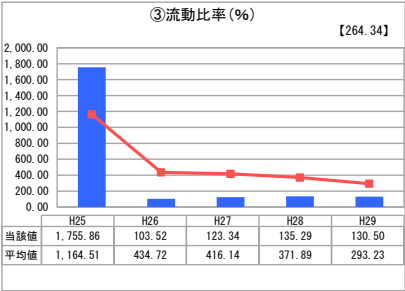
1. 経営の健全性・効率性



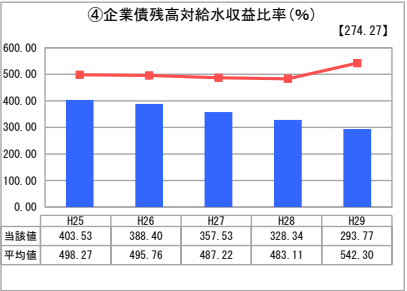
「経常損益」



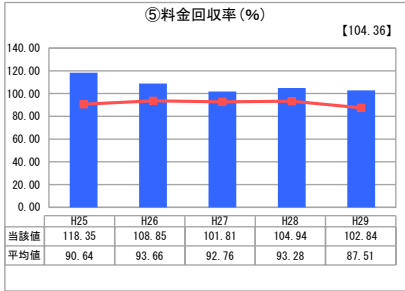
「累積欠損」



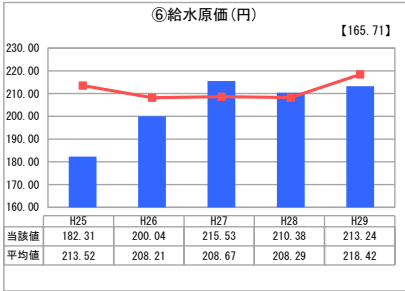
「支払能力」



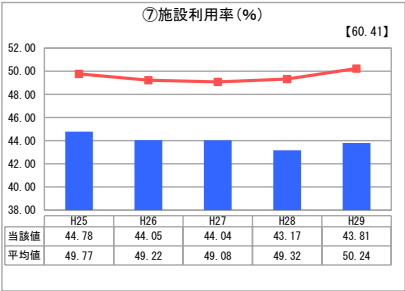
「債務残高」



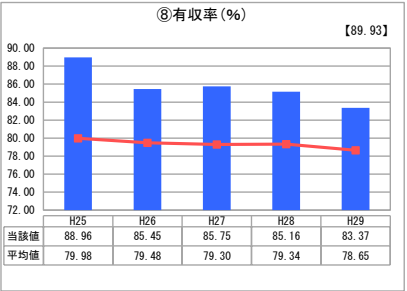
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

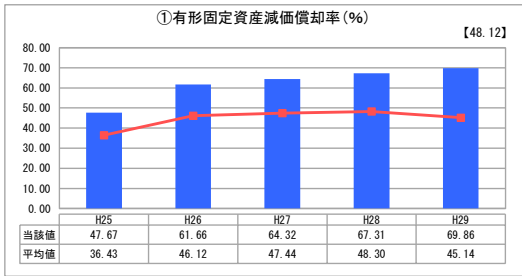


「施設の効率性」

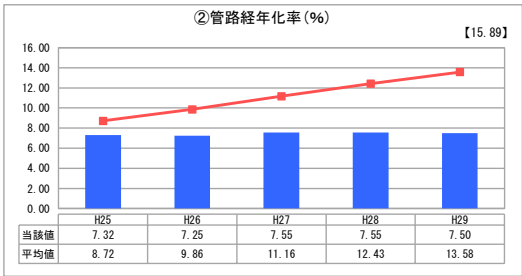


「供給した配水量の効率性」

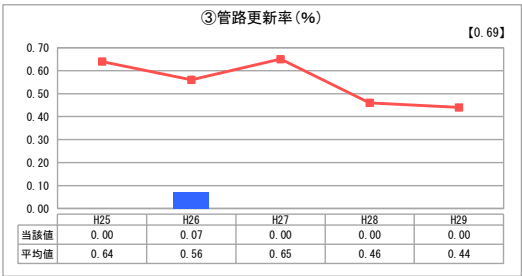
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
平成24年度からは100%を上回る黒字経営が続いている。
平成29年度は類似団体平均を上回った。
②累積欠損比率
平成28年度で累積欠損金は解消している。
③流動比率
平成26年度に急激に低下した原因は、会計基準の見直しにより企業債の負債化が影響したものである。流動負債の企業債償還金は増加傾向である。
④企業債残高対給水収益比率
類似団体平均より低く推移しており、比率は減少傾向にある。
⑤料金回収率
100%を超えているため、給水に係る費用は給水収益で賄えている。
⑥給水原価
平成29年度は類似団体平均を下回ったが、平成26年度から有収水量が減少しているため、継続して経費の削減を図っていかねばならない。
⑦施設利用率
類似団体平均を継続的に下回っている。
⑧有収率
類似団体平均を上回っているが、平成29年度は減少した。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却比率
類似団体平均を上回っており、老朽化が進んでいる。
②管路経年率及び③管路更新率
管路経年率は類似団体平均より下回っているが、平成25年度よりほぼ横ばいとなっている。管路更新が進んでいないため、更新に係る財源を確保しながら計画的に更新を進める必要がある。

全体総括

本町では、将来、管路の更新時期を迎えるため計画的に更新しなくてはなりません。また、現状では経常収支が黒字で推移していますが、人口減少による給水収益の減少を考慮したうえで、健全な経営状況を維持しながら施設整備を進めていく必要があります。